

読	ん	で	み	た	い
こ	の	一	冊		

大阪産業経済リサーチセンター  
主任研究員 松下 隆



## 『解説 3Dプリンター ーAM技術の持続的発展のために』

●丸谷洋二・早野誠治 著 オプトロニクス社 5,400円（税込）

昨年くらいから報道を通じて「3Dプリンター」は、一般の方にまで幅広く知られるようになりました。先般、わが子から「お父さん、3Dプリンターっておもしろいもの創れるんやろ」と言われてびっくりしました。テレビ報道によって広く一般の方にまで、（おそらく漠然としてではあるが）この機械について知ることとなっているようです。

近年、3Dプリンターの使用方法、機器の比較などの本が多数発刊されるようになりました。しかし、それらはいずれもホビーユーザー向けの内容のものが多く、その技術、機器開発の歴史や実用化への動き、工法の比較、課題や問題点といった産業界の方向けの書籍が充実しているとはいえません。そうしたなか、紹介する本書は、三次元積層造形技術開発の歴史、技術工法の比較、さらには将来の動向など産業界の方にも読み応えのある「硬派な」内容となっています。というのも、執筆者のおひとり、丸谷洋二氏は、1984年に3Dプリンターの原点ともいえる「光学的造形法」の特許を取得された方なのです。つまり、3Dプリンターの生みの親が執筆した本であり、内容は間違いなく「本物」なのです。

本書は5章から構成され、第1章：3Dプリンター技術の誕生、第2章：色々な3Dプリンター、第3章：3Dプリンターを使うための基礎、第4章：3Dプリンターの活用、第5章：3Dプリンターの市場となっています。

なかでも、第1章の3Dプリンターの発明者達の当時の様子を実録風にまとめられた内容は、他の数ある書籍には見られないもので、3Dプリンターが生み出される様子が手に取るようにわかる貴重

な内容となっています。当時の経緯を知る唯一の情報リソースです。

また、第3章では、3Dプリンターを取り巻く要素技術に関して、CAD技術、3Dプリンターに使用される材料知識、将来的な利用方法など3Dプリンターの工法を開発してきた丸谷氏の専門とする多くの示唆に富む内容となっています。巻ではだれでも簡単に使用できるといわれる3Dプリンターですが、複数の要素技術で組み立てられて、簡単でもない機器であることを知るうえでは基礎的情報をわかりやすく説明し、だれでも理解できると思います。

本書は3Dプリンターに興味を持たれた産業界の方々、3Dプリンターを導入しようとする企業の代表者や技術担当の方に読んでいただきたい一冊です。書店での配架が少ないようなので購入の上で熟読されることをお勧めいたします。価格相当の価値があること保証いたします。

### 【著者略歴】

丸谷 洋二 大阪産業大学名誉教授。  
大阪府立産業技術総合研究所から、1991年大阪産業大学工学部情報システム工学科教授。  
2011年定年退職。「光造形法」に関する特許発明で業界に大きな貢献をされた。

早野 誠治 株式会社アスペクト代表取締役。  
三菱商事(株)で1987年光造形装置SOUPの開発に着手。  
1996年(株)アスペクト社設立。  
丸谷氏とともに光造形装置を開発した。